

令和5年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

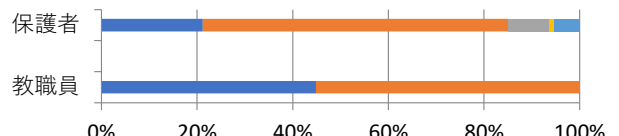
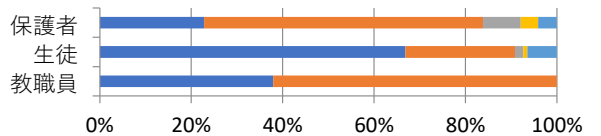
①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重

2 道徳・心の教育の充実

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）



考察：心かがやけ月間に行った「心のプレゼント」等の取り組みを通して児童の数値の向上が見られた。教職員の道徳、心の教育に対する意識も高く、昨年度と比較して伸びがみられる。その他にも自慢大会や縦割り班活動など学校を上げた取り組みの効果も表れてきている。反面、昨年度より減少しているものの依然として「そう思わない」といった否定的な評価の保護者・児童も存在する。多様な方法で成果を発信し、知らせていく必要がある。

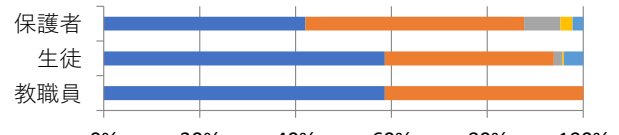
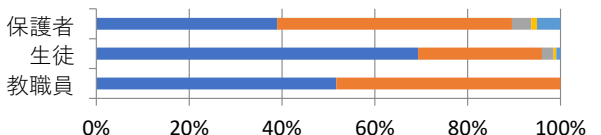
②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上

4 タブレット端末活用

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



考察：「授業力向上」については、児童の評価が昨年度と比べて向上しており、教職員の努力が効果となって表れている。タブレットの活用については昨年同様保護者の評価が児童・教職員と比べて低い背景としては家庭での使い方が影響していると考えられる。授業参観等で目にする機会も少なく授業の中で効果的に扱っていることが十分に伝わっていない。通信等でタブレットを活用した授業について知らせていくと同時に、作成した成果物を見せるなど、より周知に努めていく必要がある。

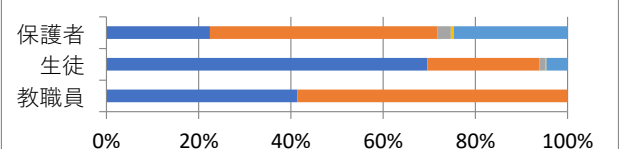
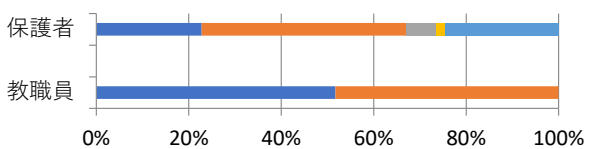
③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制

6 共生社会を担う人材の育成

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



考察：「学校の支援体制」については、個別の対応にならざるを得ず周知しづらい面があるため、保護者の「わからない」の割合が多いのはやむを得ないと思うが、職員間の共通理解は向上している。研修や部会、夕会での共通理解をさらに充実させていきたい。また、「相互理解」については児童、教職員の肯定的な評価が増加しており、取り組みの成果が表れてきている。これからもすべての教職員が様々な形で児童と関わり、各児童に寄り添った支援を行い、個性の伸長に努めていきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力																												
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。																												
<table border="1"> <caption>安全と事故防止に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25%</td> <td>75%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>75%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>55%</td> <td>45%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	保護者	25%	75%	0%	生徒	75%	25%	0%	教職員	55%	45%	0%	<table border="1"> <caption>家庭や地域との連携協力に関するアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>Yes (Blue)</th> <th>No (Orange)</th> <th>Don't know (Grey)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25%</td> <td>75%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>40%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)	保護者	25%	75%	0%	教職員	40%	60%	0%
対象者	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)																										
保護者	25%	75%	0%																										
生徒	75%	25%	0%																										
教職員	55%	45%	0%																										
対象者	Yes (Blue)	No (Orange)	Don't know (Grey)																										
保護者	25%	75%	0%																										
教職員	40%	60%	0%																										
<p>考察：「安全教育」については直接かかわっている児童や教職員の評価は全体的に高いが、保護者の2割程度には十分に伝わっていない。学校での毎月の安全点検や学校主事の迅速な対応などを学校だよりや安心メールで積極的に知らせていく必要がある。また「連携・協力」については、まちづくりセンターや自治会との連携を充実させることができた。課題としては校外での遊び方や交通安全面での外部からのご指摘が多かった。今後重点的に指導していく必要がある。</p>																													

来年度の具体的な取組について

- ・きずなアンケートや教育面談週間の設定を継続し、子どもたちが安心して生活できるような取り組みを進めていく。学校行事等でも子どもたちが主体的に取り組めるように子どもたちのアイデアを生かしながらみんなで作り上げていくように努める。
- ・各々の教職員が向上心をもって意欲的・積極的に学ぼうという姿勢につなげるような校内研修を目指していく。ICTに関しては活用の周知に加えて、現在は月に1回の情報モラル教育の頻度を増やすなど充実させる必要がある。
- ・特別支援についての啓発が進みアンケートの数値は向上しているが、教員不足による個別対応の難しさがコメントなどからうかがわれる。支援体制の工夫や保護者への周知などできる範囲で取り組んでいく。
- ・コロナ対策が一段落した感があり、対面での行事等の実施など子どもたちに成就感を味わわせることが再びできるようになってきた。また、授業参観や懇談会なども以前のやり方に戻ってきており、家庭や地域との連携、協力面での評価を高めていきたい。

学校関係者評価

- ・今年度いくつかの行事に参加させていただいたが、子どもたちのがんばる様子や先生方の指導される姿を拝見して安心した。
- ・学校評価の報告の中で不登校児童の話題になったが、全国的にもかなり増加していると聞いている。最近ではフリースクールや夜間中学などの話題もあるが、特に小学校は生きる上での重要な基礎を学ぶ役割があると思うので何とか不登校が減少するような方向が望ましいと思う。
- ・安全面については、地域社会の変化が影響している。個人情報の問題もあり子ども会がなくなった町内もあるなど、地域内でのつながりの希薄化が進み、安全面での課題につながっていると思う。
- ・コロナが一段落した感があり、人々が集まる場面（学校においては授業参観や懇談会など）が増えてきた。校区運動会なども防災と絡めて久しぶりに盛況であった。このように人々のコミュニケーションも徐々に復活させていければと思う。
- ・先日行われた尾ノ上校区のどんとやに多くの先生方もご参加いただきとてもうれしかった。このような教職員の地域行事への参加や地域人材のゲストティーチャー招へいなどの学校と地域とのつながりはとても重要だと思う。